

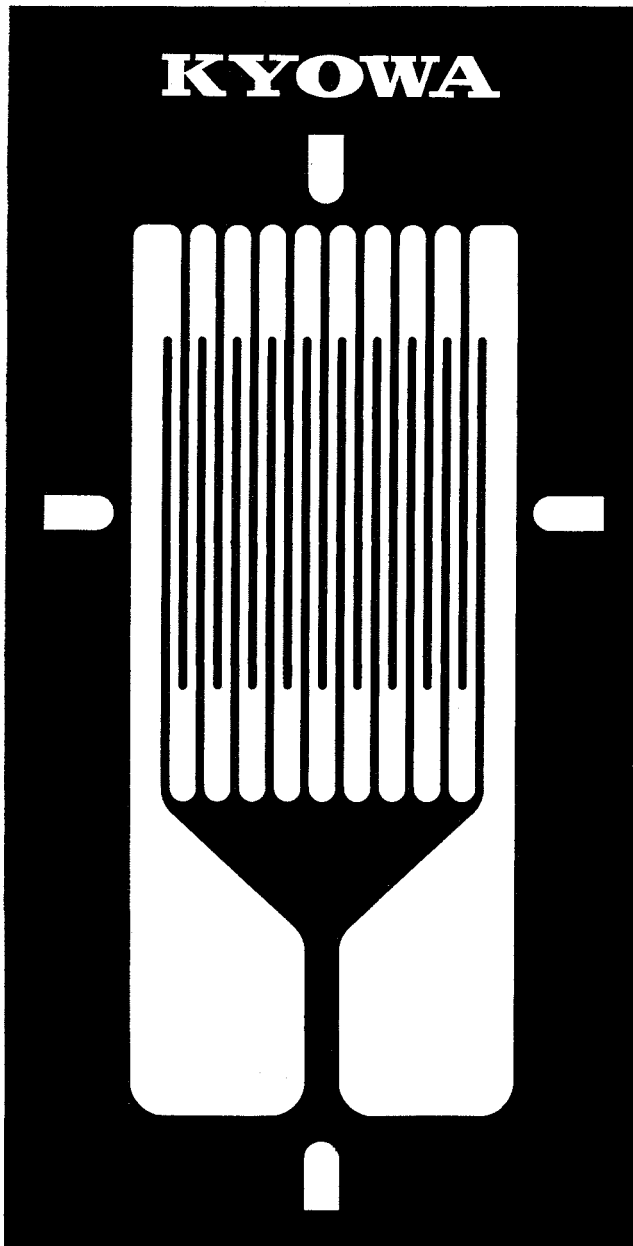
土木学会論文報告集

No. 183, 1970-11

主構造と鋼床板床組をトラス部材で合成した場合 の近似計算法	山多横 村田江 信和 道夫 稔	... 1
橋梁の振動減衰機構が動的応答に与える影響	松野操平	...15
静荷重に対するはりの応答の極値に関する二、三 の考察	中川建治	...31
矩形沈殿槽における沈殿物の再浮上に関する一考 察	高内芝 松藤武一郎 明孝	...43
飽和れき混り粘土のせん断特性	川上浩史 阿部広	...55
周期載荷をうける飽和砂の破壊	谷本喜隆 植村一晴	...63
塑性座屈についてのノート(独文)	倉西茂	...73
弾性長柱の信頼性解析(英文)	Steven T. Spence 星谷勝	...81
腹板の有限変形に関する一解析法(英文)	渡辺英一 Ti-Ta Lee	...93
テントゲートの座屈に対する信頼性解析(英文)	星谷勝 Steven T. Spence	...111

使いやすい、性能のよい、 理想のゲージ

KFC型 箔ひずみゲージ



あらゆる種類の 接着剤が使えます

KFC型箔ひずみゲージは、ゲージづくり20年の経験、研究の成果が実った自信作です。

KFC型ゲージはベークライトベースのすぐれたクリープ特性、耐熱性、エポキシの耐湿性、ポリエステルへの貼りやすさをもったすぐれたゲージです。

接着剤はシアノアクリレート系、二液混合型ポリエステル系、フェノール系熱硬化型どれでも使えます。手なれた接着剤で貼りつけてお使い下さい。

一般ひずみ、応力測定から長期安定性の必要な変換器まで広くお使いいただけます。

特 長

1. あらゆる種類の接着剤が使える
2. クリープが少ない
3. 安価である
4. ベースが小さい
5. ベースが薄く使いやすい
6. 200°Cまで使える

●カタログお送りいたします。

誌名記入のうえ広報係まで

応力測定機器の専門メーカー

共和電業

本社・工場 東京都調布市下布田1219
電 話 東京調布0424-83-5101

営業所／東京・大阪・名古屋・福岡・広島 出張所／札幌・水戸

PROCEEDINGS OF THE JAPAN SOCIETY OF CIVIL ENGINEERS

No. 183, November 1970

C O N T E N T S

- An Approximate Calculation of Bridges with Steel Decks Connected
to Main Members Through Trusses.
By Nobumichi Yamamura, Kazuo Tada and Minoru Yokoe 1
- Influences of Damping Mechanisms of Bridge Structures on Dynamic Responses
By Souhei Matsuno 15
- Several Considerations on the Extreme Values of Response of Beams
to Static Load
By Kenji Nakagawa 31
- Expression of Resuspension in a Rectangular Settling Basin
By Takeshi Takamatsu, Masaaki Naito and Sadataka Shiba 43
- Shear Characteristics of Saturated Gravelly Clays
By Hiroshi Kawakami and Hirofumi Abe 55
- Failure of Saturated Sands Under Cyclic Loading
By Kiichi Tanimoto and Takaharu Uemura 63
- Einige Bemerkungen zum unelastischen Knicken
By Shigeru Kuranishi 73
- Reliability of a Single Flexible Column with Three Spring Supports
By Steven T. Spence and Masaru Hoshiya 81
- A Method of Analysis of Webplates with Large Deflections
By Eiichi Watanabe and Ti-Ta Lee 93
- Reliability Analysis of a Tainter Gate
By Masaru Hoshiya and Steven T. Spence 111
-

The Japan Society of Civil Engineers

Yotsuya 1-chome Shinjuku-ku, Tokyo
JAPAN

論文報告集のページ数の厳守に伴う投稿規則の一部改正について

先に会告（学会誌 55 巻 6 号）でお知らせ致しました論文報告集投稿要項の「4.論文報告の長さ」にある規定ページ（12 ページ）を超過する論文が最近非常に目立って参りました。論文報告集は 会員全体のものであり、より多くの論文を掲載するにはおのずから 1 編あたりのページ数が限定されて参ります。

論文集編集委員会ではあらゆる点から検討を行なった結果 1 編あたりのページ数を 12 ページに決定したものであり、やむを得ない場合のみ超過を認めて参りましたが、現状では超過ページの判断の基準が困難になって来ましたので 12 月 1 日以降受けの論文から下記のように扱うこととなりますのでご了承下さい。なお欧文で投稿の論文も同じ条件です。ただし、欧文で投稿された論文は従来の 9 ポー一段組を 8 ポー二段組に変更します。

記

4. 論文報告の長さ：論文報告 1 編の長さは原則として図表を含み刷上り 12 ページ以内とします。ただし、4 ページまでの超過は認めますが、超過分は実費（刷上り 1 ページあたり 6000 円）負担していただきます。それを超過した論文は受付けません。
5. 和文要旨について：和文要旨は学会誌の論文紹介欄に掲載しますので論文の要旨が理解できるように 600 字以上、900 字以内にまとめて 4 部提出して下さい。

土木学会論文集編集委員

○印 主査

委員長	前田 幸雄	副委員長	○田島 二郎	委員	小池 尉夫	委員	長坂 普美夫
委員	阿部 博	委員	上田 年比古	委員	後藤 基	委員	重正 平
委員	秋川 美利	委員	上川 裕章	委員	越正 毅	委員	中村 英
委員	伊藤 文	委員	小田 英一	委員	近藤 正久	委員	中成 信
委員	伊藤 学	委員	岡村 宏一	委員	佐藤 敦吉	委員	成野 文雄
委員	○伊勢田 哲也	委員	岡村 甫	委員	佐藤 久彦	委員	○新谷 洋二
委員	池田 尚治	委員	大河原 満	委員	沢口 正俊	委員	○新野 陽
委員	石原 研而	委員	荻原 國宏	委員	資田 登	委員	○日野 幹
委員	茨木 龍夫	委員	加藤 始	委員	鳥田 静雄	委員	深田 泰
委員	稲葉 誠一	委員	金子 光美	委員	須賀 三	委員	山田 邦
委員	稲吉 正敬	委員	川北 米良	委員	鈴木 康弘	委員	山田 正
委員	飯田 隆一	委員	川口 士郎	委員	竹下 淳	委員	安田 仁
委員	○岩垣 雄一	委員	倉島 収	委員	高尾 孝二	委員	吉田 幸
委員	○岩間 滋	委員	工藤 和男	委員	高松 良	委員	吉田 仁
委員	宇井 純	委員	小村 敏	委員	土屋 敬	委員	和田 裕明

土木学会論文報告集 No. 183

定価 300 円（〒 20 円）

昭和 45 年 11 月 15 日印刷

昭和 45 年 11 月 20 日発行

発行者 東京都新宿区四谷 1 丁目

社団法人 土木学会専務理事 羽田 巖

発行人 社団法人 土木学会 郵便番号 160 東京都新宿区四谷 1 丁目 振替 東京 16828 番

電話 (03) 351-5138

印刷所 東京都港区赤坂 1-3-6 技報堂